

# 「おかえりなさい」の一言に心を込めて

山 中 花 子

## 学童保育とは

学童保育所（放課後児童クラブ）は、小学校の子どもたちが放課後を過ごす所です。「ただいま」と元気に帰ってくる子どもたちを、「おかえりなさい」と迎えます。その時、子どもたちの顔色、様子、持っている物、着ている服などを素早く頭に入れていきます。そして、「今日も良く帰って来たね」という思いで、「おかえりなさい」と迎えます。顔色は、体調や学校での様子を知るために大切です。一人ひとりにじっくり向き合う時間がなかなか取れない日常の中で、とても大切な触れ合いの時間になります。

学童保育所は、放課後を安心・安全に過ごし、仲間

たちの中で豊かな放課後を過ごし、欲しいという親の願いから生まれました。新潟市では、木戸小学校区で始まったのが最初と聞いています。親が全額出し合う共同保育の時期を経て、行政に認めさせ、施設や人件費なども新潟市から出され、現在では、指定管理者制度により事業所に指定管理されています。

学童保育は、1997年に「放課後児童健全育成事業」という名称で、児童福祉法に定められ、法律に基づく事業として実施されています。「保護者が労働等により昼間家庭にいないものに、授業の終了後等に児童厚生施設等の施設を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全育成を図る事業」と明確に規定されました。2012年制定の「子ども・子育て支援

法」と児童福祉法の改定によって、市町村が行う「地域子ども・子育て支援事業」に位置付けられました。国が推進する「子ども・子育て新制度」により、学童保育は、2015年4月1日から新たな制度・施策が開始されました。「新制度」は、消費税を財源に保育所・学童保育所に新しい制度を導入するものです。

### 支援員と施設の基準

2014年4月に策定された厚生労働省令「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」（「設備運営基準」）で、「放課後児童支援員」という資格を持った指導員を原則二名以上配置することが「従うべき基準」として定められました。また、学童保育の基礎的な単位が、「一の単位を構成する児童の数は、おおむね40人以下とする」、広さについては、「おおむね一人1・65㎡」と定められました（「参酌する基準」）。

国により、学童保育の指導員の資格や規模・広さなどが法律で定められたのは画期的な事です。2015年3月には、「放課後児童クラブ運営指針」が作られ、「全国的な標準仕様」としての性格を明確にしました。新潟市の条例でも「設備運営基準」や「運営指針」が作られ、法

的な根拠ができました。

### 指導員の待遇、改善の願い

指導員の処遇改善が進まないこともあって（全国の調査で、年収300万円未満がほとんどで、150万円未満が46・2%、150万円から300万円未満が31・3%）全国的な指導員不足が課題になり、指導員の資格・配置が2019年5月に「参酌する基準」に引き下げられ、2020年4月より施行されました。「従うべき基準」が「参酌する基準」に引き下げられたことで、子どもたちと生活をともにするうえで必要な専門的な知識及び技能を備えた「放課後児童支援員」が全く配置されないこと、ともすれば資格のない大人がたった一人で子ども達を見ることも起ります。子どもたちに安全で安心できる「毎日の生活の場」を保障することができなくなってしまう可能性もあります。私達の長年の運動が実り、やっと認められたのに残念ですが、「従うべき基準」にもどすよう国にも働きかけています。

## コロナ禍と対応

昨年3月、全国で一斉休校になった時、学童保育所は保育所とともに社会を支える事業として対応が求められ、朝8時から18時30分まで子どもたちを受け入れました。新型コロナウイルス感染症の予防について、詳しい事も分からず、手探り状態で感染症に罹らないように気を付けて過ごし、心身共にたくたくたの状態でした。長期休みの前には、受け入れのための準備をして迎えるのに、急な受け入れのため準備の時間も無く受け入れたので、日々試行錯誤しながら過ごしました。三密にならないように過ごすには、学童保育所の施設は狭すぎて児童数も多く、制度の脆弱性が明らかになりました。それでも、小学校のグラウンドや体育館をお借りすることができ本場に助かりました。校長先生を始め、担任の先生たちもクラブの様子を見に来てくださいました。

4月にも休校になりましたが、教育委員会や小学校のご協力により、見守り活動で13時まで小学校で過ごし、分散登校などもあり、学童保育所で過ごす時間は減りました。5月には、感染症予防のためおやつ不提

供を中止したので、その時間をミニ工作に充てて、時間のやりくりをしました。子どもたちが楽しみにしていた、ほっと一息ついて過ごし、夕飯までのお腹を満たすおやつの大切さを改めて感じました。

去年の七夕の願い事では、「おやつが食べたいです」「しんがたコロナが早くおさまりますように」「かぞくみんながけんこうにすぎせますように」などが多かったです。子どもたちなりに考えていることが窺えました。

6月に小学校が再開した時には、ほっとしました。この間の勤務に対して、新潟市や指定管理事業所から全職員に対して、勤務日数に応じて一時金が支給されました。

## 他の職員との連携

子どもたちは、学校での出来事や地域での事など、様々な事を抱えて学童保育に帰って来ます。ちよつとした会話から本音が窺えることもあり、触れ合いを大切にしています。

小学校の敷地や空き教室で学童保育を実施する場合には、小学校の先生たちとの情報交換がしやすく助かっています。忘れ物などで学童保育に顔を出してく

ださった先生たちには、学校での様子を教えていただくことができず、また、学童保育での様子を伝えることができず、子どもたちを理解するのに役立っていません。みんな子どもたちを見守り育てていることを実感しています。用務員さんには、いろいろお世話になっていきます。体育館の窓を開け閉めしていただいたり、草刈りをしていただいたり、子ども達に声をかけていただいたり、助けていただいたりしている事が多いです。

## 学童保育の課題

学童保育の仕事はやりがいのある仕事ですが、身分保障が不十分のため、若い世代の人たちが長く働き続けるのが困難です。国に養成制度ができ、しっかりとした職種として認められる事が必要です。

施設の広さや児童数の規模も不十分で、大規模クラブは早急に分離・分割する必要があります。

まだまだ不十分な制度で、課題は多くありますが、保護者の就労支援と子どもたちの健全育成のため力を尽くしていきたいと思えます。

(やまなか はなこ・新潟市)

## 朝の「たのしみ」

私には毎朝のたのしみがある。わが家の東側は一面の畑に面していて、ここを農道が走っている。

この農道を毎朝、小学生が登校する。雪が降るまで月曜日から金曜日まで登校する。私たち夫婦は朝食後お茶を飲みながら「見送る」ことになる。

通過する集団は三つ。どうやら集落ごとに集団登校するらしい。三つの集団は登校する順番も時刻もほぼ変わらない。人数も変わらないところをみると、どうやらどの子も健康らしい。

毎日見ていると気になることがある。三つの集団がくずれて二つや一つになることがない。そしてほとんど話をしないことである。

一番元気な世代の子どもたちが、列を乱さずに、ほぼ完黙状態で通過するのに、私はいささか違和感を感じる。少々列を乱したり、お話しをしてはいけないのだろうか。どうやらどこかで「指導」を受けたいらしい。

その分、学校で元気に活動してほしい。今朝も「おとなしい」子どもたちを見送る。

(大滝)